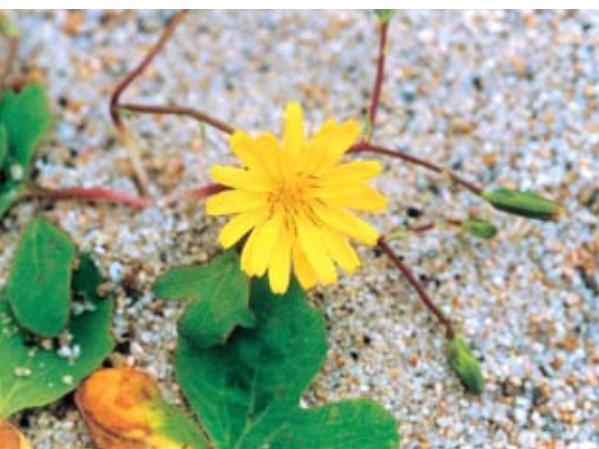


みんなのひろば

普代浜の砂地に黄色い高さ一〇センチメートル、花の径三センチメートルほどの大花だけが、まるで突然のように咲いている。葉もその目立たない、茎も細いので気がつきにくいからか、花だけが際立つて目についてしまふ。

地下茎は深く長く横にはえ白い。強い陽光から自らを守るために、葉を茂らせ日陰をつくることもなく、砂上にある花を守るのではなくて、主に丈夫な地下茎だけのようである。

花期は五月ころから十月と長い。砂上に葉だけ見え



普代浜周辺（写真：大森さん提供）

て見えないから、時にはこの葉は何の葉かと迷うこともある。葉をとつて液をなめてみると、やはり苦みがある。苦菜の名の由来はここにある。

平成16年度 青少年劇場

とき 6月10日（木）
10:00～11:30

ところ 普代小学校体育館

内容 声楽「混声四重奏・マーシャル27演奏会」

普代の植物散歩 ⑯ 「ハマニガナ（きく科）」

大森 竹之助さん（71歳・久慈市在住）



ているので、つまり花と茎と葉の関係は砂の中に隠れ

時にはこの葉は何の葉かと迷うこともある。

葉をと

つて液を

なめてみ

ると、や

はり苦み

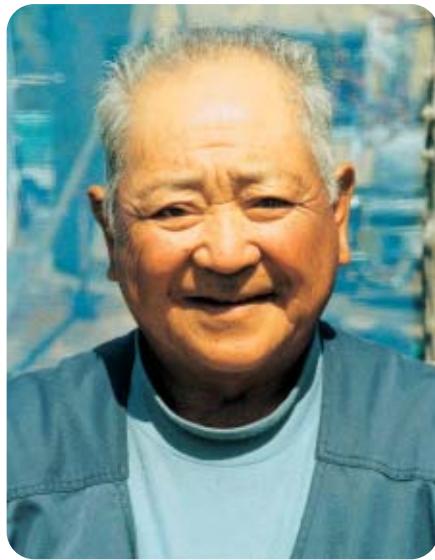
がある。

苦菜の名

の由来は

ここにあ

「もつきりは年中無休」



中居 義己さん（太田名部・74歳）

出番ありふるよふるよ

《260》

★：わがいころは、ワガメ、コンブ、カゼ、アワビそれさ、百姓もやり、炭焼きもやり、なんでもやつたがあ。養殖（ワカメ、コンブ）は七十歳までやつたがあ。★：昭和三十六年のフエーン大火では運よく家は残つたども、山の財産をごつそり焼がれだが。いだがつたなあ。★：子どもは六人。孫、ひ孫をかでれば二十五人だがあ。いっぽかいだべえ。★：今はそつとうぶらり、こつづうぶらり、苗しろを管理しながら隠居生活をするのがある。そうして晩げえさにはもつきり（お酒を飲むこと）、年中無休だがあ。

文芸の世界

川柳愛好会
四月例会作品

考えよう明日に向かってどうするか 春彼岸墓に舞い散る迷い雪 嵐城 待女

美人薄命私長生していります

八十才これから先は運まかせ

優しくて陽気な人は天国へ 寒椿わが郷愁をかきたてる

春せ蛙明日に向かってにだん跳び 加差野 静浪 深渡 行女

白椿あなた潔よさが好き ひと言が足りずに散った寒づべき 春風に押され遊ぼう野原樂し

太長根英子 三上 翠香

うたかたの命と知らず迷い雪 これからに賭けて過去には封印す

春せ蛙明日に向かってにだん跳び 加差野 静浪 深渡 行女

白椿あなた潔よさが好き ひと言が足りずに散った寒づべき 春風に押され遊ぼう野原樂し

太長根英子 三上 翠香

うたかたの命と知らず迷い雪 これからに賭けて過去には封印す